



▲柿右衛門倣製錦葡萄栗鼠文花瓶 仏国・シャンティイ窯
H23×φ12 口径φ5.7 高台φ8cm

●シャンティイ窯
コンデ公ルイ＝アンリ・ド・ブルボン(1692年～1740年)が18世紀前半に開窯し、柿右衛門様式の写しを作ったことで知られる。

十八親和 アート ギャラリー
Juhachi Shinwa Art Gallery

学芸員
便り

当館で所蔵する作品を紹介します

十八親和アートギャラリー開館10周年記念

特別企画展第4弾「郷土画家～畑農照雄の油彩画」・
「縁起ものと現代の陶工展」

会期:2022年12月9日(金)～2023年1月17日(火)

当館の陶磁器コレクションは、その多くが肥前のものです。染付を中心とした大皿、花瓶、壺、細工物などを陶磁器展示室2で公開しています。2022年度は、この展示室にある作品の一部を展示替えし、これまで展示する機会がなかった作品を「肥前の名工展」、「茶陶展」とテーマを設定してご紹介してきました。開催中の「縁起ものと現代の陶工展」にて展示している〈柿右衛門倣製錦葡萄

栗鼠文花瓶〉は、仏国・シャンティイ窯のものとされています。ぽつてりと丸みを帯びたヒョウタンの器形全体に余白を残しながら葡萄の実や蔓を配し、中央の左下に黄色で長い尾を垂れ下げたリスを描いています。

葡萄栗鼠文様は中国に伝わる吉祥文様が由来とされ、陶磁器のほかにも絵画、彫刻、工芸などに多くの作例があります。たくさんの実をつけるブドウに一度に複数匹の子を産むリスは子孫繁栄を、ヒョウタンは無病息災、魔除、商売繁盛、子孫繁栄など、古来より様々な願いが込められてきました。

本展ではほかに、〈色鍋島染付青磁宝尽文大皿〉(鍋島藩窯)、〈柿右衛門倣製鳳凰草花文波淵小判型皿〉(英国・チェルシー窯)、〈柘榴文額皿〉(十二代今泉右衛門)などを展示しています。

異なる国と時代につくられた品々が、新春のひと時を彩るものとなれば幸いです。

(十八親和アートギャラリー学芸員 藤松綾子)

十八親和
アートギャラリー

開館時間: 10:00～16:00(入館は15:30まで)

休館日: 日・月・祝日、年末年始(12/31～1/3)

※土曜日が祝日の場合は開館

長崎県佐世保市島瀬町4-24 十八親和銀行島瀬ビル1F

鑑賞無料

TEL0956-23-4856

西肥バス島瀬町バス停から徒歩3分

JR佐世保駅から徒歩約20分

